



20101214
[10-06]
総 154号
発行 桂 坂
自治連合会
広報編集部

一年を顧みて

桂坂学区自治連合会
会長 菊池潤治

心待ちにしていた『坂上の雲』の2年目が始まりました。歴史の重さに感動せざるを得ません。すごい、すごいことだと納得しながら夢中になっているところなのです。

この一年の桂坂もすぐくまち全体が整備され、ひきしまつてきた感じがいたします。

地下鉄問題は前進はしていないものの、市バス京阪京都交通およびヤサカバスの三社が、一〇分に一回の間隔で桂坂を廻るようになり、ずいぶん便利になってきたと思えます。しかし、一行政区の中で西京区だけ地下鉄がないという不平等をなんとか是正してもらいたいと切に思います。

最初に「まちづくり」について

桂坂地区建築協定協議会、桂坂学区自治連合会共催の「景観まちづくりフェスティバル」が2月に京大のローム記念館で行われましたが、素晴らしいものでした。

来賓として、門川市長が来られ挨拶をいただいた他、京都市立芸術大学准教授の藤本英子氏の指導により、絵画「桂坂を描く」と芸大生の作品が展示され、また、小学生の「桂坂お気に入り」の場所「一〇〇点余りも出品されており、興味深く拝見しました。

次に、体育面での活躍を振り返ります。春には、大枝中学校が京都市春季総合体育大会において陸上女子が総合優勝し、また男子もバスケットで優勝しました。10月2日には、「なんでも鑑定団」を小学校体

育館で実施、全国放送された。桂坂を知ってもらいました。桂坂「体振」20周年の記念行事の一環でしたが、布本会長を中心に役員の見事な結束力が見事でした。この氣勢が次に通じました。即ち、11月3日、西京極総合運動公園で実施された第2回市民スポーツフェスティバルにおいて「西京区」が念願の初優勝を飾ったのです。桂坂学区も小学生の男女混合四〇〇米リレーをはじめ、ソフトバレーボール、ペタンク等で優秀な成績をあげました。

次に文化活動です。コーラスのシルフィード合唱団やカラツカコンサート、朗読サークル「木もれ日」等が大変活躍されていることは皆様ご承知のとおりです。各種団体では、山の手

最後に 自治連合会の広報紙「桂坂」に毎号、掲載されている「古墳の森」(大枝山古墳群)について触れておかげばなりません。9月26日、「桂坂の開発の歴史を知り「古墳の森」復活と保存を目指し」と銘打つ「講演と映画」の会が開催されました。

大阪工業大学教授の道家駿太郎氏は桂坂のまちづくりの目指したものの、またその経緯などを分かりやすく話され、今後の桂坂を考える上で大いに参考になりました。「大枝山古墳群」は身近にある古墳の発掘の様子を撮影した記録であり出土品からもこの群集墳が貴重な文化財であるとの認識を深めることができました。

埋蔵文化財研究所の丸川義広氏の講演は、各古墳の姿を映したスライドを使用した説明、また、古墳がどのようにして造られたかの話など、古墳発掘に携わられた直接体験が基にあるだけに聴くものの心を捉えました。

第2、第3研修室では出土品の須恵器、土師器の展示が行われました。第1研修室に入りきらず廊下に溢れた人がかなりありました。桂坂の皆さんが、桂坂のまちづくりにその歴史にいかに関心をお持ちかを示すものでした。

現在「古墳の森」の保存会を設立するための準備が進められています。古墳時代後期の横穴式石室をもつ円墳一三基の集まる、京都では貴重な「群集墳」で、文化財として保存を考えなくてはなりません。

「古きを温めて新しきを知る」——この意味は先人の刻んだ事蹟から問いかける意味を学び、その智慧を活かして現実の

事象に対処していく方法を知らないとことでは、うが、銀象眼や須恵器等を造るかなりの技術を身につけていた、古墳の森に眠る人たちの営みに想いを寄せながら、その思い、智慧等を桂坂の今、また将来の設計に役立てていけたらと思います。

今後は、時に応じた清掃活動も必要かと思われ、また、ご協力の呼びかけに応じていたただきたいと思えます。

本年中にいただきましたご協力、ご支援、誠にありがとうございました。どうか皆様、よき年をお迎えくださいませ。

年末防火運動と消防分団特別警戒

今年も12月15日より31日まで「年末防火運動」が実施されます。

また、この間、桂坂消防分団の学区内一円の特

別警戒も実施されます。

実施内容は、消防分団器具庫に詰め、車や徒歩で巡回しながらの「防火広報活動」です。

日頃、消防分団は、防火活動を通じて桂坂の無火災推進に尽力されてい

ます。「年末特別警戒」の期間、詰所の器具庫に

出向かれて激励していただければ、と思えます。

桂坂消防分団 新春出初め式

1月10日(月・祝日) 11時より12時まで、桂坂

小学校校庭(雨天時、体育館)で実施されます。

当日は、「点検礼式」(規律・姿勢・服装他)

優秀分団員の表彰伝達などが行われます。

年末防火運動 12月15日~31日

桂坂消防分団 年末特別警戒 12月20日~30日

20日~24日 20:00~22:00 25日~30日 20:00~24:00

平成22年12月9日

平成22年度「赤い羽根」共同募金のお礼

西京地区桂坂分会 分会長 松井 政枝

師走の候 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

過日の「赤い羽根」共同募金運動には、皆様よりあたたかいご理解とご支援を頂きまして誠に有難うございました。厚くお礼申し上げます。

また、募金運動にご奉仕頂きました皆様のご配慮とご尽力に、重ねて厚くお礼申し上げます。

皆様方よりの尊い募金が、地域の社会福祉事業の推進と民間社会福祉施設の整備・充実など数々の事業の進展に寄与し、大きな成果を上げることと存じます。

なお、年度末には、共同募金会より実績額の5%の還付金が頂きますので、事務活動費を差し引きまして、残金を桂坂学区災害基金として積立てさせていただきます。

つきましては、今年度の実績を下記の通りご報告申し上げます。

記

募集実績額 1,363,721円

内訳 かえで自治会 130,400円 つばき自治会 139,410円

さつき自治会 127,500円 くすのき自治会 46,000円

しらかば自治会 80,700円 もくれん自治会 87,100円

はなみずき自治会 12,500円 あすなろ自治会 73,500円

あかしあ自治会 65,800円 にれのき自治会 117,100円

あぶら自治会 55,400円 もみのき自治会 146,713円

けやき自治会 65,300円 さくら自治会 65,400円

ひいらぎ自治会 87,500円

(株)西洋ハウジング様 10,555円

デイリーカーナートイズミヤ桂坂店様 10,000円

バルコスペースシステム様 10,000円

イマジュリン様 10,927円

その他の方よりの募金 31,916円

報告
洛西担当区長との懇談会

今年、桂坂学区から三つの要望が出されそれぞれに回答がありました。

(1) 御陵大枝山町一・二・三丁目北側の裏山斜面の土砂災害防止対策に

● 御陵大枝山町一・二・三丁目北側の裏山斜面の土砂災害防止対策に
● 要望——8月12日の豪雨で裏山の斜面から土砂や泥水が流出し、土砂、枯枝などが街路にあふれでる被害が発生した。
● 何に起因するかを究めて早急に対策を講じて欲しい。

● 洛西支所区民部総務課の回答——排水枡の浚渫、土嚢積みを実施した。今後の対策としては、「今年度中に土砂流出防止のための工事

京都市長表彰

平成22年11月2日、京都府会館において献血活動ならびに地域の保健衛生等に尽力、貢献された団体・個人が表彰されました。

● 地域住民献血組織表彰

桂坂献血会

「受賞功労」二〇年余りにわたり崇高な献血理念のつとめ、献血活動の推進と計画献血の実現

ことよって最終的には「背後の山林と同等の林」に導く計画。「当該法面は、全て岩質であるため、現時点では安定している」と判断している。開発当初は「法面表面に金網を張り植栽用の土壌を覆土した上に種子の吹き付けを行い、緑化を計った」とみているが「法面そのものの表面は岩」で、「長い年月の間に覆土した土壌はほとんど流出し、現在は岩が露出している状況」。岩質の異なる法面では、エニシダが現在も生育中。

今年度も覆土が流出したが、「一昨年から緊急の対応として、柵沿いに土嚢を設置し、緑地外への土砂の流出を防いでいる」が、この度、一部ではあるが、「土留柵（高さ四〇cm×八〇cm）を本市管理法面の内、堆積土砂が多く存在している東端から約三三三m区間で設置し、法面からの流出土砂を受け止める構造としたい」と考えている。

● 保健協議会役員勤続功労者表彰

小迫久男 保健協議会長

「受賞功労」三年余りにわたり保健協議会の役員として、地域の保健衛生並びに生活環境の向上に尽力し、市民がいきいきと安心して暮らせる京都のまちづくり大きく貢献した功績

(2) 花の舞公園南側歩道のガードレールおよび横断歩道設置の件

要望——公園は子どもの出入りが多く、かなり交通量の多いバス通りに面している。

● 西京土木事務所・水と緑環境部北部みどり管理事務所への回答——

ガードレールによる完全封鎖は難しい。公園内に植栽帯を増設することによって防ぐことが可能であると考えている。実施できるような検討していく。

● 西京警察署への回答——

小学校前の信号機から東桂坂の信号機までの約一キロの区間に横断歩道が設置されていない。横断者や車の交通量等現地調査を実施したうえで横断歩道の設置を検討したい。

(3) 「桂坂中央」バス停における騒音対策

要望——①駐車スペースが空いている時は南側に駐車すること。②確実なアイドリングストップを行うこと。

● 交通局自動車部運輸課への回答——

お客様サービスの面から、運行前に冷暖房を行う場合、エンジン始動は一分前とし、運行終了後はただちにエンジンを切るよう指導に努めている。

備えあれば憂いなし

防災訓練に参加して

さつき自治会 味田 良夫

例年より早い木枯しに冬の訪れを感じさせる晩秋の11月7日(日曜日)恒例の「防災訓練」が実施されました。当日は小春日和、午前8時30分の「訓練 地震発生」の緊急放送で、自治会館に参集し、防災用資機材を積み込んだりヤカーを先頭に、指定避難場所である桂坂小学校に集合しました。

小学校グラウンドに到着するや、桂坂消防分団をはじめ桂坂自主防災会等の皆さんの指導の下、火災現場に見立てた煙の充満する訓練用テントをハンカチを口に当てて匍匐前進しました。パニラ味に味付けした煙幕でしたが、一寸先も見えない状態での行動は不安を覚えさせるものでした。

このような先制パンチを受けて全自治会約五〇の重要性、またその励行について、日常点呼や職場研修などを通じて運転手一人ひとりに周知徹底していく。また駐車位置についても南側から順に留置するよう周知していく。京阪京都交通株式会社にも申入れを行った。

冒頭、菊池桂坂自主防災会会長の挨拶があり、阪神淡路大震災を契機に桂坂自治連合会(自主防災会)として重点的に防災に取り組み、各自自治会(自主防災部)に防災用資機材を配備したことなどの説明がなされ、これらの先進的な取り組みが高く評価をされていることが紹介されました。

訓練内容は、初期消火訓練、人工呼吸法・AEDの使用法を組み合わせた救急訓練等を体験するという実践的なものでした。そして、桂坂消防分団の放水訓練を見学し、屋前には水口洛西担当区長の挨拶講評で終了となりました。

最後に、給食給水班の地域女性会や山の手倶楽部、PTAの皆さんによる美味しいトン汁が振舞われ、参加者全員が身も心も暖かな思いに浸り、「備えあれば憂いなし」の格言を再確認した一日となりました。

山の手倶楽部だより

写真同好会に入って

写真を楽しもう!

写真同好会は、山の手倶楽部の発足と同時に結成され、約二〇年の伝統があります。

現在も会則の目的「写真活動を通じて会員相互の親睦とレンズを透しながら、豊かな感性を育み、写真技術の向上を目的とする」の主旨に沿って、楽しく活動しています。

年間行事は、①撮影会を、22年度は5月「桂坂フォトハイキング」、6月「京都府立植物園」、10月「京都の街並みを歩く」、11月「京都西山の柳谷観音」を実施し、3月

「未定」を予定しています。②研修会を、4月・7月・9月・1月・2月にふれあい会館の第3研修室にて外部講師(今期にて終了)の講習会で始まり、コーヒータムを挟み、会員各自持参の作品を、わいわいがやがやと鑑賞して、終了します。

③12月は忘年会を開催します。

④野鳥遊園展示コーナーに6ヶ月毎に、2ヶ月間、作品を展示します。今年度は11月・12月に二点展示しています。是非ご覧ください。(8月は

休会)

他に、9月には市老連(ミヤコメッセ)・区老連(ウエステイ)の作品展(各二日間)、10月に山の手倶楽部の「趣味の作品展」(中信2F、二日間)があり、作品を出展します。

近年、カメラのデジタル化が進み、現在、会員一七名(四名女性)の多数の方がデジタル(一眼・一眼レフ)カメラ・コンパクトデジカメを使用されています。右機種にて写真を楽しまれている方、写真同好会に入会すれば、益々、写真が楽しくなりますよ! ご入会をお待ちしています。

写真同好会 阪本 健



訓練内容は、初期消火訓練、人工呼吸法・AEDの使用法を組み合わせた救急訓練等を体験するという実践的なものでした。そして、桂坂消防分団の放水訓練を見学し、屋前には水口洛西担当区長の挨拶講評で終了となりました。

ジをする健気な姿が目につきます。まさに、地域の安全は自らの手で守るという基本を体現していることに感動しました。そして、桂坂消防分団の放水訓練を見学し、屋前には水口洛西担当区長の挨拶講評で終了となりました。

桂坂のロータリー 美しいシンボルゾーンに

桂坂緑水会 来春には

京都市緑政課(街路樹担当)と意見交換を経て桂坂緑水会は11月12日(金)、京都市緑政課街路樹担当者、かえで自治会館において意見交換会をもった。平成18年5月、街路樹里親制度ボランティア活動を開始して以来、市当局者と八回目の意見交換会であった。

当日は、市当局から前川、水元両主任、緑水会からは一、二名、桂坂自治連合会から細谷、加藤両氏を交えて、二時間にわたる熱心な意見交換会だった。

この種の意見交換においては、一年を振り返って、春の植栽状況、来春の補植箇所等の確認、夏場の給水状況等を検証してきた。

今回は、市当局より永年要望してきた、ロータリーの第2段階の企画が表明された。

今春3月の第1段階には、おたふくナンテンが植栽された。

ロータリーは言うまでもなく、桂坂のシンボルゾーンであり、玄関口にもあたる。

桂坂創立20周年記念事業の一環としても、花木の潤いあるロータリーの実現を謳った。そして

いよいよ来春3月〜4月には実現できる。ロータリーは年々車両が増える中で、視界を遮ることなく、低木と、四季の花で飾れるロータリーに。

第2段階では、おたふくナンテンの内側に、セイヨウイワナンテン・レインボー二八六〇本、コクチナシ二四〇本、キリシマツツジ三四〇本、ヒラドツツジ一五五本、フイリフエラオーレア七〇五本、計四三〇〇本を植栽する計画。懸案の給水設備はすぐに解決できないのが現状だが、下草刈り、剪定、水遣り、落ち葉清掃等、美しい景観保持に努力、努力を要することは必然であります。

市当局としても、桂坂住民の皆さんの熱意に、その意欲、気概、能力を見てとられたものと信じます。このことは我々住民の財産であり、誇りでもあります。実現のあかつきには一体となつて、しっかりと保持して行かねばなりません。

桂坂緑水会は微力ながら、皆さんと力をあわせ尽力してゆく所存であります。宜しくお願いたします。

徳光

桂坂「体振」だより



11月3日、第22回市民スポーツフェスティバルが開催されました。

西京区が念願の初優勝

二年ぶりの快挙です。

桂坂体振チームも活躍

し、西京区の初優勝に大いに貢献しました。

●小学生男女混合四〇〇mリレー 準優勝(参加数九六チーム)

藤本知恵さん、内田悠斗君、山本咲良さん、吉岡豊君、以上の諸君たちです。おめでとうございませう。

桂坂ソフトバレーボール部Aチーム 優秀賞(二戦二勝)

新宮知徳さん、西村英克さん、杉谷明美さん、今井敬子さん、最近負け知らずの選手たちです。おめでとうございませう。

●男女八〇〇mリレー 第8位(参加数四四チーム)

11月6日、エミナースボールにおいて、第19回桂坂ポウリング大会が開催されました。

一四自治会、約一〇〇名の選手および応援の皆様が集まりました。各自治会五名の選手が、二ゲームづつの合計点順位を競いました。

結果 優勝 にれのき

準優勝 くすのき

第3位 しらかば

熱い戦いを演じられた選手の皆様や応援にきていただきました皆様、和気あいあい、あつという間の時間でした。

なお、上位一二名の方は西京大会に出場されます。頑張つて昨年のリベンジを果たして下さい。

11月28日、西京区民ポウリング大会がしようざんボールにおいて開催されました。

男性七名、女性五名の計一二名。三ゲーム合計で上位八名の合計点で競技は行われました。

結果 団体戦 第3位

個人戦

男子 第2位 福岡寛さん 六八九点

女子 第3位 平塚節子さん 五四五点

団体戦3位の入賞、そして個人戦に活躍された皆様、誠にめでたうございませう。また上位を目指して頑張つて下さい。

11月28日、ホテル京都エミナース明治アニバーサリーホールにおいて、西京区体育振興会連合会の創立三五周年記念式典ならびに祝賀会が開催されました。当学区の菊池潤自治連合会長も来賓として出席いただきました。

功労者表彰とは別に、

「桂坂ほっとラインの会」だより [22. 11. 10]

桂坂学区にお住いの概ね70歳以上の独居の方、高齢者所帯の方などが、日常生活で「独りではできない、ちょっと手を貸してもらえたら」と困っておられる場合、その手助けをする「ほっとラインの会」が発足して2年余りが経ちました。今までもどのようなお手伝いをしているかお知らせしてきましたが、今回はこの2年間の依頼内容を一覧表にとりまとめました。

依頼内容	件数
庭の手入れ、植木の剪定など	13件
換気扇・窓ガラス・壁などの清掃	4件
棚の組み立て	2件
蛍光灯の交換	2件
話し相手(継続中)	1件
合計	22件

(これ以外に4件、専門的な技術が必要等のためにお断りしたケースあり)

この活動に現在40名余りのボランティアの方に登録していただいています。また、庭の手入れに関する依頼が多いので、剪定に必要な用具なども準備いたしました。

日常生活でちょっとした手助けを必要とされる高齢の方は、気軽に下記の受付窓口へ電話で何なりとご相談ください。できる限り対応するよう準備しています。

当制度はまだ十分に周知されていないこともあり依頼件数は多くありませんが、高齢化が進んでいく中で地域内での助け合いは益々大切になってくると考えられます。お互いに助け合い、暖かい心のつながりを広げていくことによって、桂坂が少しでも住み心地のよい地域になるように、当制度を地域ぐるみで盛り立てていただければと願っています。

受付・連絡先	青山(つばき)	333-2051
	田中(かえで)	332-1565
	松井(かえで)	331-8860
	真野(しらかば)	331-8792
	中西(さくら)	393-4622

桂坂地区の皆さん ボウリング会員募集中

「桂坂ボウリング愛好会」が発足して8年になります。老若男女、初心者から経験者まで、地域の交流を図りながら楽しくプレーしています。

ボウリングは初めてという方には経験者が教えてくれます。点数は気にせず楽しみたいと思われたら、是非一度見学に来て下さい。

詳しくはご連絡いただければご説明させていただきます。ご連絡お待ちしております。

対象——桂坂に在住または通勤の方で、20歳以上の方。(学生の方は除きます)

連絡先	335-0130	内藤
	331-4480	鈴木
	332-4714	長谷川

今年度の第20回桂坂学区民体育祭において「大

桂坂小学校 大文字駅伝に出場

11月20日に行われた西京支部の大文字駅伝の予選会では、日頃の練習が実を結び、見事1位で代表権を獲得しました。

本選は来年2月6日に行われます。

選手の皆様、心をついに、バトンをしっかりとリレーして……

新たに「生涯スポーツさわやか賞」が設けられました。年齢八〇歳以上の方で、永年にわたり生涯スポーツに親しんで来られ、現在もなお多くの皆さんとともにスポーツを楽しみ、区民の健康増進と地域コミュニティの活性化に大いに寄与されている方を対象とするものです。

当学区では、森下太郎 佐藤鐵夫、立野和之、上久保潤治郎、松本正二ら五名の方が、中村西京区体育振興会連合会会長、古川西京区長より表彰されました。

受賞に敬意を表するとともに、これからもお好きなスポーツを続けていただき、お元気で頑張ってください。

玉ころがし」で優勝されたさつき自治会が「京都ギネス」に挑戦、見事に「今年度二位」に登録されました。

12月11日、京都府公館レセプションホールにおいて授賞式が行われ、さつき自治会より中蔵曜子副会長、井手元智恵子様 体育振興会より会長、副会長ら三名が出席いたしました。

■ 第2回桂坂まちあるき ■ 奥深さを感ぜしませる 桂坂の歴史と景観

11月28日に「第2回桂坂まちあるき」が開催され、日頃は立入りできない「古墳の森」から桂坂地区の中心部を歩くコースに、二五〇名余りが集まりました。

昨年「桂坂・夢まちプロジェクト」に参加させていたでいる私どもも京大・居住空間学講座もスタッフとして参加しておりました。



皆さまと「参加者数一五〇〇名」と予想して準備しましたが、実際は予想を遙かに超え、ご不便をおかけしました。

桂坂のまち歩きに 参加して

自治連合会 内田 圭子

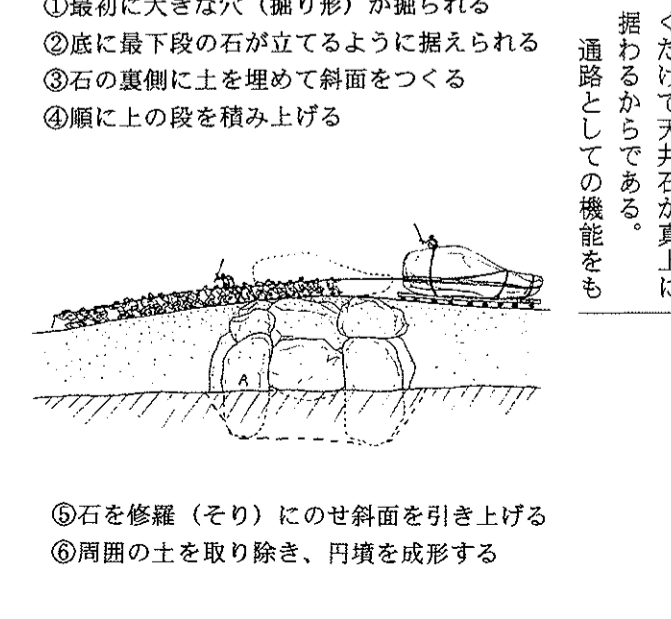
私が初めて桂坂の古墳公園を訪れたのは、この地に移り住んだ二〇年ぐらゐ前のことでした。

さて、私にとっては初体験の石室訪問ですが、中に入ると、さすがに外の空気とは違ったものが感じられ、私の身に戦慄が走りまわりました。

最後に、この「大枝山古墳群」を擁するすばらしい環境に出会えたことに感謝するとともに、今後大切に保存していくには何をなすべきかと、自分に問いかげながら家路についた次第です。

横穴式石室は、死者を埋葬する空間（玄室）とそこに出入りする通路、羨道からなる。ともに石の平坦面を内側にせり上へ行くほど内側にせり出す独特の積み方（持ち送り）がみられる。

石室に使用された石材は大小様々である。重いものは数トンに達するが、基礎石が直線的に並べられることや玄室と羨道の境（袖という）に小石を詰めて長さを調整した形跡があることからわかる。玄室の長さを計ってみると、三・六メートルと三・二メートルの二種類が主流をなし、共通の尺度（物差し）で設計・施工されたことが想定できた。



- ①最初に大きな穴（掘り形）が掘られる
- ②底に最下段の石が立てるように据えられる
- ③石の裏側に土を埋めて斜面をつくる
- ④順に上の段を積み上げる
- ⑤石を修羅（そり）にのせ斜面を引き上げる
- ⑥周囲の土を取り除き、円墳を成形する

連載 大枝山古墳群 ③

「石室を造る」(3)

京都市埋蔵文化財研究所 丸川 義広

時期が新しくなり石室も小型化すると、石材も小さくなり、最終的には大人一人で持てる程度の石が多用される。

土で固めると、上に石がのせられる。さらに石の後ろに土が入れられ、緩いスロープに沿って石が運ばれる。次第に小山が形成され、最後に天井石が修羅に乗って頂上に運ばれる。石室の真上に設置される。この時、石室内には土が充満していたと想定される。土を取り除くだけで天井石が真上に据わるからである。

和。優に二五〇名を超えられた方々が参加されました。「古墳の森」内の一三基のうち三基では羨道を経て黄泉の世界を示すといわれる玄室に立ち入ることができました。



樹木の生い茂る中に鎮まるこの「古墳の森」のたたずまいがより古の姿に近いものを伝えている。今回の「古墳の森を巡るまち歩き」にスタッフとして参加された京都大学の居住空間学講座の安枝、神吉両先生と大学院の院生の皆さんに一文を草していただき、また、自治連合会の内田さんにも寄稿していただきありがとうございました。